

廉池軒

廉池軒は後樂園南側に位置し、南門を入れて右手側に見えます。1934年の台風で被害を受けた後復元され、それ以来建物の外観は変わっていません。後樂園の中でも第二次世界大戦の空襲を免れた数少ない建物のひとつです。

廉池軒は藩主の池田綱政（1638-1714）のお気に入りの場所でした。綱政は後樂園を造営した藩主で、正面の池にかつて咲いていた蓮の花を見ながらの朝食を好んだと言われています。

鯉が泳ぐ池には花崗岩の橋がかかっていますが、この橋は後樂園ができた当初から庭園設計の重要な要素でした。途中でVの字に曲がる橋は、ひらがなの「く」の字をイメージしたもの。東側の部屋は現在カフェとして使われており、そこには仏教の宇宙観を表現した円形の窓があります。そこからも庭園の眺めを楽しめます。

廉池軒からは庭園の池やなだらかな風景、松林などの景色を楽しめます。正面にある小さな池は庭園の北端と沢の池とを結んでおり、唯心山のふもとを流れて庭園東側の花交の池へと流れる水路の役割を果たしています。

廉池軒をはじめとする庭園内の施設は月替わりでオープンしており、事前に予約すれば貸し切りもできます。